

《 学校沿革 》

平安京が成立以来、東へ東へと発展し、やがて左京が都の中心地となってゆくのに対し、西ノ京は当初より人家稀にてついに発展することなく近年まで、かつての平安京とは考え難いような地域であった。

150 年ほど前まで、千本通りより西には町の灯らしいものはまるでなく、点在する民家の灯がわずかに町の広がりを見せているのみであった。東へ広がった市街は、東山を越え山科へと広がり始める頃、人々はようやく西に京の存在を思い出したかのようであった。このような状態の中で、円町を中心とした一地域だけが民家の発生をみたのである。したがって民家のあるこの一円を指して特に西ノ京とよんだのである。右京が長く開けなかった最大の原因は、豊富な地下水による湿潤な地域であったということである。又近年四大道路通りの開通にともない急速に発展してきた所である。

—千本と朱雀大路より—

昭和 6 年 12 月 15 日、平安京大内裏治部省跡に、京都市立朱雀第六尋常小学校 {京都府告示・912 号} 設立指定。同 7 年校舎建築起工、同年本館、南校舎竣工。同年 9 月 1 日開校。当時の児童数は 4 年以下 512 人、学級数 10 学級をもって始められた。校区は西町、南町、北西町、式部町、小堀町、車坂町、内畑町、星ヶ池町、永本町、左馬寮町、であったが数度の校区再編成を経て現在に至る。その後、校名変更、国民学校となり、太平洋戦争の動乱有って、学童疎開等児童、保護者共に苦難の道を歩んだ。敗戦後は学制改革と共に、新教育実践のはたじるしをいちはやくかかげ、「朱桜教育」の名のもとに全国にその成果を問うこと数度、学校職員、校区諸団体保護者をあげての取組は、当時の話題となった。その遺産は今なお本校教育の底流として流れ、現在も地道ながら「朱六教育」として受け継がれている。環境としては、中京区西部に位置し、校庭の樹木は種類の多様性と豊かさにおいて市内ではめずらしく、玄関前の繁みは、「朱六の森」の名にふさわしく、緑化促進運動の指定校として、昭和 56 年に 600 本の樹木が、児童のゆとりの時間の活動と連携して植えられ、緑豊かな学校となり、情操面、理科の観察学習からも益すところ大である。

昭和 6 年	12 月	京都府告示 912 号 本校設立の旨指定。	昭和 25 年	3 月	京都市研究実験学校研究発表会。
昭和 7 年	4 月	校舎建築起工。		4 月	27 学級。
	8 月	本館南校舎 12 教室竣工。	昭和 26 年	2 月	第 4 回教育研究全国大会。
	9 月	開校 (4 学年以下児童 521 名を 10 学級に編成)		9 月	新校舎 (2 教室、便所、渡廊下) 落成式。
	10 月	講堂竣工。	昭和 27 年	1 月	18 日～28 日 第 5 回教育研究大会。 (朱桜教育研究第 5 集教育朱桜) 発行。
昭和 8 年	4 月	5 学年以下 14 学級。		9 月	創立 20 周年記念式
	12 月	北校舎竣工	昭和 28 年	1 月	26 日～28 日 第 6 回教育研究全国大会。 (朱桜教育研究第 6 集) 発行。
昭和 9 年	4 月	右馬寮町、船塚町、西月光町を通学区域とする。		11 月	京都市教委より学校表彰。
	6 月	落成式	昭和 29 年	2 月	13 日～15 日 第 7 回教育研究全国大会。
	7 月	機関紙「すざくら」発刊。		4 月	29 学級。
昭和 10 年	4 月	25 学級に。		6 月	教育技術連盟より表彰。
昭和 11 年	4 月	25 学級に。	昭和 30 年	2 月	第 8 回教育研究全国大会。
昭和 12 年	1 月	左馬寮町、右馬寮町を朱二校へ。 船塚町、西月光町を朱四校へ移す。		5 月	新校舎、木造 2 教室完成。
	4 月	25 学級。	昭和 31 年	2 月	第 9 回教育研究全国大会。 「子どもの自主性と社会性の追究」発表
昭和 13 年	4 月	26 学級。		11 月	講堂暗幕装置完成。
	4 月	国語教育研究発表会 (読方教育類型的展開とその指導)	昭和 33 年	2 月	創立 25 周年記念式並びに給食調理室、 校舎新築竣工式、校歌作成、校歌発表、
昭和 14 年	4 月	26 学級。		12 月	畜舎、水族館設置
昭和 16 年	2 月	校舎北部の空地を買収、運動場完成。	昭和 37 年	10 月	創立 30 周年記念式
	4 月	京都市立朱雀第六国民学校と改称。	昭和 38 年	11 月	保健体育研究対策校発表会
昭和 17 年	4 月	養護学級設置 (第 2 学年児童 30 名をもって学級に編成)	昭和 40 年	11 月	京都新聞社より「優秀学校図書館」として表彰。
昭和 18 年	4 月	27 学級	昭和 43 年	11 月	「安全教育推進校」の表彰。
		国民学校統合により朱五、中川町、東月光町児童受継。	昭和 44 年	9 月	学校園完成
		給食調理室設置。	昭和 46 年	3 月	プール建設予定地史蹟発掘調査。
昭和 20 年	2 月	科学教育研究発表会。		7 月	プール竣工式
	3 月	集団疎開開始。(何鹿郡山家村)	昭和 47 年	10 月	創立 40 周年記念式
	10 月	集団疎開帰る。	昭和 51 年	7 月	家庭教育学級開設。
昭和 21 年	4 月	25 学級。		12 月	改築校舎、竣工式
	11 月	教育技術研究会。	昭和 52 年	4 月	朱六会館竣工式
	12 月	国語教育研究発表会。	昭和 53 年	12 月	第 2 期改築校舎竣工式。(西門新設される。)
昭和 22 年	4 月	京都市立朱雀第六小学校と改称。 朱桜プラン学習形態確立。	昭和 55 年	3 月	第 3 期改築校舎竣工式。
	7 月	第 1 回新教育研究発表全国大会。		10 月	運動場改修工事完了。
昭和 23 年	6 月	京都府新教育実験協力学校になる。 朱桜プランカリキュラム構成。	昭和 57 年	9 月	1 日 本校創立 50 周年。
	7 月	第 2 回新教育研究全国大会。	昭和 58 年	3 月	7 日 体育館兼講堂竣工式及び創立 50 周年記念式典 挙行。
昭和 24 年	6 月	国語学習研究協議会。		11 月	給食室竣工。 1 日 プール更衣室、便所新設工事完了。 30 日 運動場、砂場改修工事完了。
	11 月	11 月 17 日～19 日 第 3 回教育研究全国大会			

昭和61年	8月	1日 プール更衣室、便所新設工事完了。	平成19年	11月	30日 研究発表会<算数科> 市教委指定 「みやこパイロットスクール」
昭和62年	9月	30日、運動場・砂場改修工事完了。	平成21年	1月	19日 朱桜ふれあい広場完成式。 30日 研究発表会<算数科>
昭和63年	10月	20日 第24回全国・第17回近畿小学校 家庭科教育研究大会京都大会開催。	平成22年	1月	29日 研究発表会<算数科> 文部科学省指定コミュニティスクール推進事業 学校支援地域本部事業 京都市教育委員会指定校内LAN活用推進事業 小中一貫教育推進事業
平成7年	12月	2日 朱六PTA 文部大臣表彰受賞記念式典挙行政。	平成23年	10月	28日 全日本学校歯科保健優良校表彰
平成8年	12月	1日 市教委フロンティアスクール推進事業指定 研究発表会<算数科>。	平成24年	1月	28日 研究発表会<算数科> 小中一貫教育推進事業
平成9年	11月	27日 市教委フロンティアスクール推進事業指定 研究発表会<算数科>。	平成25年	2月	1日 自主研究発表会<理科> NIE実践指定校 指定
平成10年	9月	北校舎トイレ全面改修	平成26年	4月	17日 自主研究発表会<理科> 豊かな学びリーディングスクール (伝統文化教育) 指定
平成11年	3月	給食調理室改修	平成27年	2月	4日 自主研究発表会<理科> 25日 豊かな学びリーディングスクール (伝統文化教育) 授業公開
平成12年	10月	24日「朱桜ふれあいサロン」開所式			
平成13年	4月	京都府統計教育研究指定校〔平成11・12年度〕			
平成14年	1月	28日 自主研究発表会 (生活科・社会科)			
平成15年	4月	育成学級設置			
平成16年	8月	コンピュータールーム移動 (コンピューター16台増設)			
平成17年	9月	図書室〔低学年〕改修			
平成18年	2月	2日 自主研究発表会 (生活科・総合的な学習)			
平成19年	3月	体育倉庫改築。			
平成20年	1月	25日 自主研究発表会 (生活科・総合的な学習)			
平成21年	3月	本館1階 快適トイレ改修。			
平成22年	6月	28日 創立70周年記念式典 プール全面改修			
平成23年	4月	二期制導入			
平成24年	1月	28日 自主研究発表会<生活科・総合的な学習>			
平成25年	1月	26日 研究発表会<国語科> 市教委指定 「みやこ学校創生事業」(一年次)			
平成26年	11月	25日 研究発表会<国語科> 市教委指定 「みやこ学校創生事業」(二年次)			
平成27年	12月	1日 研究発表会<国語科> 市教委指定 「みやこ学校創生事業」(三年次)			

《 校下の概要 》

近代日本への一大転機となった大政奉還の行われた二条城の西に校下を接し、明治の面影を残すJR二条駅を含み、南は江戸時代より水運路として活用され、丹波よりの物資の搬入路であった西高瀬川をはさみ、北は山陰線までの南北に細長い一帯を校区とする。古来、この地は、平安京大内理に近く、当時の遺物遺跡も多く出土している。特に、校地付近は、往時の治部省跡と推定され、平安朝期の瓦、土器類も校舎改築工事等の際に数多く出土している。また、遠く旧石時代と推定される石器も出土し、人間の生活が原始時代よりこの地で営まれていたと思われる。しかしながら、平安朝の衰微と、その後の戦乱によって荒れはてたが、いつしか、人々の努力により、農地としてよみがえり、京都市政施行までは朱雀野村の一部となっていた。その後幾度かの区画整理により現在に至っている。

現在は、時代の変遷と共に農地は宅地化し往時の面影はない。しかしながら校下南部は昔日、材木等の流通域にあった名残材木関係の工場等も営まれているが、貯木場も次第に宅地化し、数少なくなってきた。また、伝統産業に関連した繊維加工業も行われているが、主としては宅地である。

学校南面の東西に通じる道は、太子道と称し(通称は旧二条通)、往時は広隆寺への参道としてにぎわった。現在は丸太町通と三条通間唯一の東西道となり、人や車両の通行も多く、車社会の現況を反映して、しばしば交通渋滞が発生し、課題となっている。

《 学校の特徴 》 21世紀の朱桜教育

本校は小規模校のよさを生かして、一人ひとりに「自ら学ぶ力」と「豊かな感性と人権尊重の精神」「心身をきたえる力」を培い、自己の確立をめざす教育に努力している。

戦後まもなく本校では、自ら考え、自ら決断する自主的、主体的な人間、自己の言動に責任を持ち、他人の人権を尊重して、ともに働きともに楽しんで生活を創造する人間を目指し、「朱桜教育」に取り組んできた。その精神を現在も底流として受け継いでいる。かつての「朱桜教育」の「ならう」「はたらく」「つとめる」の三領域を新教育課程では、「教科学習における基礎基本の定着」、「総合的な学習の充実」、「自主的・実践的な態度を育てる特別活動」に生かして21世紀の朱桜教育の創造に努めている。

《 歴代校長 》

初代 上原 昭平(昭7.9~13.3)	第9代 下出 和一(昭40.4~43.3)	第16代 松井 菊江(平元.4~平6.3)
第2代 志賀健之助(昭13.4~16.3)	第10代 麻野 敏雄(昭43.4~47.3)	第17代 橋本 昇(平6.4~平12.3)
第3代 井出 八郎(昭16.4~18.3)	第11代 河野昌次郎(昭47.4~51.3)	第18代 山田 陽子(平12.4~平16.3)
第4代 酒川 哲保(昭18.4~21.3)	第12代 金子 英雄(昭51.4~55.3)	第19代 齊藤 克志(平16.4~平21.3)
第5代 小野 為三(昭21.4~30.3)	第13代 中川 成男(昭55.4~58.3)	第20代 小椋寿美子(平21.4~平24.3)
第6代 安川 行夫(昭30.4~33.3)	第14代 大橋 隆朗(昭58.4~61.3)	第21代 村井 千種(平24.4~平27.3)
第7代 藪内 育雄(昭33.4~36.3)	第14代 大橋 隆朗(昭58.4~61.3)	第22代 田菘真由美(平27.4~現在)
第8代 文朱 繁治(昭36.4~40.3)	第15代 小田 艶子(昭61.4~平元.3)	